

第8回丹波市自治協議会のあり方懇話会概要

日時：令和元年8月28日
 場所：ハートフルかすが大会議室
 会議の詳細は
 丹波市ホームページへ



第8回丹波市自治協議会のあり方懇話会を開催しました。第8回は、前回までの協議「自治会と自治協議会のあり方」、「地域づくり計画のあり方」、「行政との連携のあり方」、「行政に影響されない（頼らない）地域経営のあり方」について、更に深い議論を行い、第8回の協議テーマ「人材育成のあり方」についても議論が展開されました。



◎これまで（第6、7回）の振り返り

【協議項目】

- 自治会と自治協議会のあり方
 - ・組織、活動
 - ・情報共有、意思疎通
- 地域づくり計画のあり方
- 行政との連携のあり方
 - ・事業展開の上での連携体制の構築（交付金等）
 - ・まちづくり指導員、市職員のあり方
 - ・双方向の情報共有と協働体制の構築
- 行政に影響されない（頼らない）地域経営のあり方
 - ・自主財源の確立、コミュニティビジネスの展開
 - ・総働や多様な人材が参加する機能的な運営

【委員からの主な意見】

都市の構造化という基本的な考えの中に25校区が位置づけられているが、その上に3つの区域の整理の仕方がされている。福祉分野とさらに限定した形とがある。どのような議論となったのか。

おそらく50年前はこれほど役所に頼ることなく地域の問題を色々やってきた。50年の間に自分たちでやれる部分より、行政がサービスでやる部分が増えたのでは。

自治協議会で誘致の施設や残す施設をきちんと議論してそれをまちづくり計画に盛り込み、自治協議会全体で調整する。その辺り計画を地域の総意としてしっかりと作成する必要がある。

3つの生活圏のゾーニングは、行政機能だけでなく生活の営みという部分での便宜を図っていくというイメージが強いのではないのか。

一番身近な小学校区単位でしっかり地域のことは地域で考え生活も成り立たせられるような自助単位で考えていこうというのがこの自治協議会のポイント。

自治協議会に対して、地域づくり支援者とはどういう目的で設置されているのか。

丹波市全体の中でどういうゾーニングをしながらお互いに役割分担に寄与していくかの方向性を見たと思う。その辺り自治協議会の役割も考えていただけるのでは。

中心や周辺地域ということよりも地域でどれだけ努力してビジョンの方向へ持っていかである。都市構造を実際に進める段階で、市と協議し自治協議会も手を繋いで進めることが大切である。

まちづくり計画を作成する際の情報提供、取り組みの方法を考える職員であればこそできる役割であった。現在は、一部では、参加という形態になっているところもある。

地域づくり支援者のあり方として、会合等で効率的に情報交換でき、市と地域の情報交換のパイプ役となればよい。

庁内LANを使って、担当部署が引き取ってくれるようなデータベースシステムなどの作成でより連携しやすくなる。



◎人材育成のあり方

・若者や女性の参画を通じた人材育成

《視点》

☆若い人や女性が参画できる仕組みとは

- ・計画づくりから参画できる仕組み（やりたいことができるきっかけ）。
- ・実行は、計画からの責任感と役員等が口を出さずに任せることができているか。
- ・若い人や女性へのサポート体制とはなにか。

☆みんなが主役になる参画と協働の仕組みづくり

- ・やりたいひとがやりたいことをはじめるきっかけとはなにか（例：集いの場）。
- ・やりたい人がはじめられる支援体制とは。

・存在的な地域の人材を掘り起こし、高齢者の活躍の場づくり

《視点》

☆さまざまな方との交流の場づくり

- ・農業のばかりでない田舎の様々な業種の方との交流が活動を広げる。
- ・移住者（国内外）との繋がりが活動を広げる。

☆高齢化率などの数字とのギャップを見つめ直す

- ・高齢化率などの数字ですぐに判断せず、困っていること、今後困ることを整理して具体像で議論する。
- ・高齢者や認知の方でも担い手側に回ってもらうこともできる人はいる。自分の能力を発揮してもらえるような地域活動の取り組みが大切である。それはなにか。

【委員からの主な意見】

ボランティアグループには、男性の参加がない。自治協議会の役員などは女性が少ない。

色々なサークル活動が地域の活力となっている。他の地域でされている活動を見に行くのも良いヒントとなる。

様々な方が一步を踏み出せるような仕掛けとして、情報提供が重要である。

男性は組織の中で肩書とか役割がしっかり決まった中で動く。女性は、しっかりして何かと言われると嫌で、緩やかに動きたい。

様々な面で活動されている方と自治協議会がしっかり関係を持ち、自治協議会のもとに置くような仕掛けができればよい。

フェイスブックを活用して、取材に行かなくても済むようにしたり、上手く編集して、広報誌に使う方法もある。

意思決定をして組織を運営する立場の集まりと、活動を担う立場とを役割分担、上手く連携すればよい。

顔を見せて活動を自治協議会の中に位置付けていくことと、役員をお願いすることによって線引きをきちんとすると活動を展開してくれる人も増えるのではないかと。

活動が後でもきちんと見れるようにしておく、最初に参加するハードルを下げられる。

部会を全て埋め尽くさず、何かやりたい人のために隙間を作って、新たな部会を作る。

世代交代として、今の会長などはオブザーバーとして入り、40、50代の方にビジョンを描いて、実現してもらうのがよいのではないかと。

自治協議会の入り口の敷居を低くして、居心地の良いところというのが必ず必要である。

運営側が、活動をされている人に口出しすると何となく任されていないような気になる。任せたら全て任せるほうがよい。

丹波市自治会長会の校区の理事を自治協議会の代表になると、上手く連携できるようになる。

